



平成21年4月14日

各 位

会社名：図書印刷株式会社

(コード：7913 東証第一部)

代表者名：代表取締役社長 沖津 仁彦

問合せ先：常務取締役財務本部長 近江屋 喬

(TEL：03-3473-7330)

業績予想及び期末配当予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成21年4月14日開催の取締役会において、平成21年2月9日に公表しました平成21年3月期(平成20年4月1日～平成21年3月31日)の通期業績予想及び配当予想を、最近の業績動向を踏まえ、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせします。

記

1. 業績予想の修正

(1)平成21年3月期通期連結業績予想の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	64,300	930	1,240	△150	△1.75
今回修正予想(B)	64,900	350	690	△700	△8.15
増減額(B-A)	600	△580	△550	△550	
増減率(%)	0.9	△62.4	△44.4	—	
(参考)前期実績 (平成20年3月期)	65,797	1,863	2,051	941	11.74

(2)平成21年3月期通期個別業績予想の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	62,400	590	1,080	△110	△1.28
今回修正予想(B)	63,100	△110	410	△700	△8.15
増減額(B-A)	700	△700	△670	△590	
増減率(%)	1.1	—	△62.0	—	
(参考)前期実績 (平成20年3月期)	65,218	1,438	1,945	676	8.44

(3) 修正の理由

平成21年3月期の業績予想につきましては、生産体制の再構築を実施し、生産効率の向上、コストの削減等に努めてまいりました。しかし、当期においては、その効果は限定的であったこと、また、大型事故債権の発生、当社主要販売先である出版市場の長期低迷の深刻化がリーマンショック以降一段と進み、当初想定を大幅に超える受注単価の下落が影響し、営業利益、経常利益は前回予想を下回る見通しとなりました。

当期純利益は、一連の構造改革である沼津工場の再構築で1億9千3百万円、連結子会社である関西図書印刷株式会社の篠山工場閉鎖で4億9千2百万円の特別損失の計上を見込んでおりましたが、更なる構造改革の進展のため、蒲田フォトスタジオの休止を実施いたしました。これに伴い3億1千万円の特別損失を追加計上する見込みとなったため前回予想を下回る見通しとなりました。

2. 配当予想の修正

(1) 修正の内容

	第2四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭
前回発表予想 (平成21年2月9日発表)	—	(未定)	(未定)
今回修正予想	—	2.00	6.00
当期実績	4.00	—	—
(参考)前期実績 (平成20年3月期)	4.00	4.00	8.00

(2) 修正の理由

当社は、安定的な配当を継続することを最重要政策のひとつと位置付けるとともに、企業体質強化のための内部留保にも配慮しながら総合的に決定することを基本方針としており、中間配当につきましては、1株当たり4円の配当を実施いたしました。

当期の期末配当につきましては、平成21年2月9日公表の「業績予想及び期末配当予想の修正並びに特別損失の計上に関するお知らせ」において配当予想を「未定」とさせていただきますが、事業環境はさらに厳しい状況で推移しております。

このような状況に対処するため、生産体制の再構築の一環として、沼津工場の構造改革、連結子会社である関西図書印刷株式会社の篠山工場閉鎖、蒲田フォトスタジオの休止を実施するなど、柔軟な生産体制を実現し、収益改善及び経営体質のより一層の強化に努めておりますが、依然として先行きについては不透明感が払拭できない状態が続いております。

こうした事業環境下において、誠に遺憾ではございますが、平成21年3月期の期末配当を2円とさせていただきます。従いまして、平成21年3月期の1株当たり年間配当は、実施済みの中間配当4円を含め、6円となる見込みであります。

株主の皆様におかれましては、何卒ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

(注) 上記の予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後様々な要因により予想と異なる結果となる可能性があります。

以 上